

# ミュージアム・ティーチャー ワークショップ

## 一次案内

### 主題 博物館と学校とのよりよい連携をめざして

#### 主題設定の趣旨

前回の学習指導要領の改訂時に「総合的な学習の時間」が創設され、学校教育における博物館の有効活用が促されたことを受け、近年、博学連携の事例研究などが多く発表されるようになってきた。また、欧米で博物館学を研究した研究者がミュージアム・エデュケーターなどとして日本でも活躍される場面も多くなってきた。ハンズ・オン展示やワークシートの活用、展示室内でのアクティビティなど、日本の博物館が取り入れるべきものも多い。

しかし、欧米と日本の学校教育システムには違いがあり、日本の学校の博物館利用はまだまだ、校外学習・遠足での利用が主流であり、授業の1つとして少人数で来館するのではなく、40名近い生徒が2～3クラスで来館、しかも校外学習シーズンには10校以上来館するのが通常である。100名以上の生徒が、ハンズ・オン展示に群がり、ワークシートに記載されている展示に群がっているのが、今の日本の博物館ではないだろうか。

欧米の博物館での学校利用の手法を参考にすることは、非常に大切であるが、日本の教育システムを熟知した現場教員の経験のあるミュージアム・ティーチャーが日本の教育システム用にアレンジすることが重要である。

そこで、現在ミュージアム・ティーチャーとして博物館にいる教員、また、その利用法を知っているそのOB、博物館での教育学に関心のある方を集め、話題提供の後、討論することで、人と人とのネットワークを構築し、日本型教育システムにおけるより有効な博学連携の方策について探りたい。

期日 平成20年2月11日(月)～2月12日(火)

#### 日程(案)

	9	12	13	15	18
2月11日(月)	<館内視察>	受付	講演	事例発表・質疑	懇親会
2月12日(火)	事例発表・質疑	昼食	総合討論		

#### 会場 滋賀県立琵琶湖博物館

滋賀県草津市下物町1091

#### ご参加について

参加を希望される方には、第2次案内を送付いたします。E-mail、FAX、郵便で下記担当までご連絡をお願いします。

E-mail koichi@lbm.go.jp (lbmはLBMの小文字です)

FAX 077-568-4850 琵琶湖博物館交流担当 中村公一 宛

郵便 〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091

琵琶湖博物館交流担当 中村公一 宛